市民参加のアリの分布調査の結果まとまる

富士市に生息するアリ51種を確認

富士市では、平成 17 年から富士市全体の環境の実態を把握する目的で、自然環境マップの作成に取り組んでいる。旧富士川町を含め、あと 3 年行う予定である。

この自然環境マップ作成に伴い富士市が、身近な生き物を通して地域の環境を考える機会を持ってもらう趣旨で実施する、大気汚染の状態を確かめることから始め、市民と共に行う生物の一斉調査は今年で4回目である。これまでの実施記録を以下に記す。

・平成18年：地衣類調査(地衣類と大気汚染の関連)、総勢50名参加
・平成 19 年：メダカとカダヤシ＆タニシとジャンボタニシ（絶滅に瀕している生物と外来生物）、総勢 70 名参加
・平成 20 年：セミのぬけがら調査（温暖化、ヒートアイランド現象）、総勢 100 名参加
・平成 21 年：アリの分布調査（富士市の自然環境の特性）、総勢 90 名参加

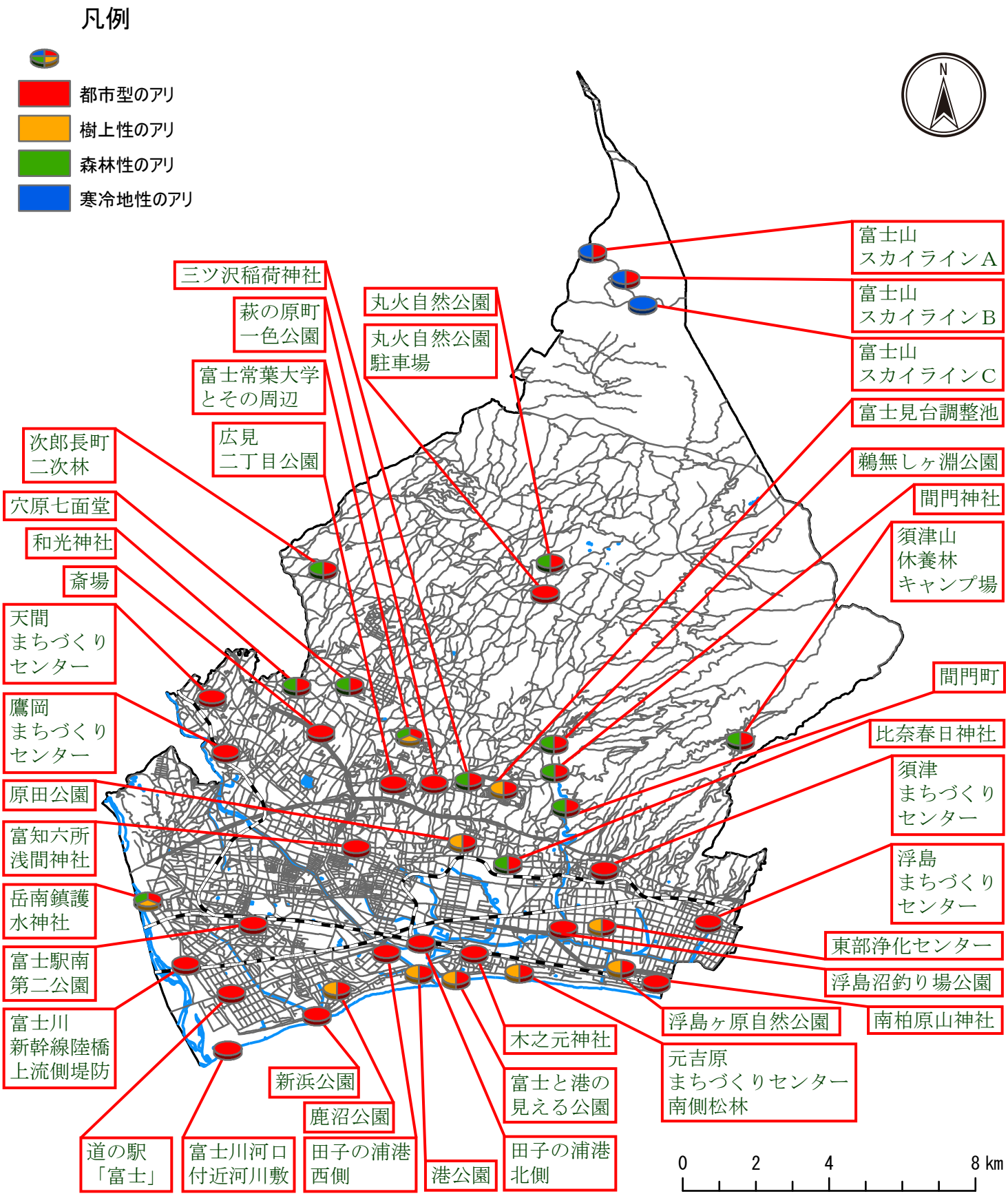
今年のアリ調査は、改めて富士市の自然環境の特性に気づいてもらうのがねらいだった。

まず昨年と同様に、富士常葉大学環境防災研究所では、子どもから大人までの富士市民に参加してもらい、本学の学生とともにアリの分類方法を学ぶ体験調査を実施した。その後43ヶ所51種のデータが集められた。その概要は以下の通りである。

・富士山の標高1500m付近では北方系の種が確認され、南方系の種が海岸林で確認された。
・富士山の1200mまでの森林では、湿潤な森林環境を好むアリ数種が確認され、雲霧帯の森林が良好な環境であることがうかがわれる。
・市街地でも、荒れ地や草地でも生息できる、クロヤマアリ、オオズアリなど6種から7種のアリが見られ、市内全般のいずれの箇所でも少なくとも4・5種は見られることが解った。
・富士市以外に、市全域でアリの調査を行った例は無いと思われるが、富士市の環境が、森林が残るなど多様であるため、分布している種数が概して多いと考えられる。

以上の傾向が確認されたが、43ヶ所のデータ量では、富士市全体の環境を判定するのにはまだ不十分である。今後の調査が期待される。

富士市民によるアリマップ調査結果



富士市自然環境マップ整備事業キャンペーン調査より
富士常葉大学附属環境防災研究所